



神青協神宮研修会で挨拶をする藤山神青協会長（神宮会館）

道
神
青

第32号

北海道
神道青年協議会
平成17年3月31日

去る三月二十三日から二十四日にかけて神青協の神宮研修会が神宮及び神宮会館を会場として開催された。毎年神青協の各地区持ち回りで開催される中央研修会は十一年に一度、我々が本宗と仰ぎ、また心の故郷と慕つてやまない伊勢の地で開催されるもので、名称も中央研修会ではなく、神宮研修会となる。なお本年度は第六十二回式年遷宮元年という節目にあたり、主題を神宮式年遷宮「真姿顕現にむけ国民総奉賛をめざして」のもと参加者一同意義深くこの研修会に臨んでいたように感じられた。

当日は先ず白衣白袴に着替え、開講式が行われた。開講式では藤山神青協会長の挨拶の中で神宮大宮司様のお言葉である「見て来て感じて」を実際に実践され、今回研修したことを各地域に持ち帰つて貰いたいと述べられた。「日本の大祭・開講式の閉式後直ぐに「伊勢のご遷宮」のビデオが上映された。続いて講義Iとして「日本の大祭・神宮式年遷宮」その古儀と展開」の演題のもと神宮司庁総務部次長・神宮司庁教学課主任研究員である小堀邦夫先生よりご講演戴き、米

翌日は早朝五時四十分より内宮に臨んだ。第一分科会は内宮域内巡拝、第二分科会は外宮域内巡拝第三分科会は嘗林について、第四分科会は造宮について、第五分科会は神宮の文化施設について、第六分科会では神宮の御料地についてをそれぞれ視察・奉仕し皆熱心に研修を行っていた。帰館後各自レポート作成を行い、その後閉講式が行われ、二日間の神宮研修会の全日程が無事終了した。

北海道神道青年協議会副会長
帶廣神社 宮司 大野 清徳

神青協神宮研修会

会長就任御挨拶

田湯 直宣



常日頃より本会の諸活動に対しましては、格別の御支援と御協力を賜り厚く御礼を申し上げます。昨年九月二十七日に開催された臨時総会に於いて次期会長に選任され、平成十七年度より向後二年間、図らずも会長の席をお預

退任の御挨拶

永井 承邦



このたび、平成十五・十六年度と二年間に亘り務めさせて頂きま

した道神青協会長の職を退任するにあたり、一言ご挨拶を申し述べさせて頂きます。

先ず以て、この二年間を執行部として共に御活動戴きました当期役員と事務局に、そして折々に深い御理解と温かい御協力を賜りましたOB先輩諸賢と会員に対し、衷心より厚く御礼感謝申し上げます。

顧みますと、平成十四年十月開催の臨時総会にて、藤山前会長より次期会長にとの指名を受け、今

は本会創立五十五周年を迎えてより計画しております記念事業も会員が一丸となつて協力し、

扱、御承知の通り平成十六年度は本会創立五十五周年を迎えてより計画しております記念事

業も専心努力を尽くす所存で御座いますので、今後とも変わらぬ御指導と御鞭撻を賜ります様宜しくお願いを申し上げます。

斯界の更なる充実と発展を目指す所謂尖兵として、様々な活動に邁進して参りたく存じます。微力乍らも専心努力を尽くす所存で御座いますので、今後とも変わらぬ御指導と御鞭撻を賜ります様宜しくお願いを申し上げます。

新年度からの会務につきましても役割分担を見直した三部会制の下、円滑な会務の運営を遂行するためのより一層の合理化に向けてより計画しております記念事業も会員が一丸となつて協力し、

無事滞りなく執り行われました。この節目の年は、我々青年神職が今後進むべき道を見つめ直し、何が出来るのかを改めて模索し、次世代へと継承する活動を開拓していく転機だったのではないかと感じているところで御座います。

新年度からの一層注目されるわけあります。会員一人ひとりがその自覚を持ち、活発な事業展開は勿論の（総務組織・教化渉外・事業広報）事務処理の方法や、インターネットを活用して我々の活動内容を発信できる体制、また新たなる事業展開をも含めて模索検討し、関係団体との連携を図り乍ら、会員の意識の高揚と資質の向上に努めて参りたく存じます。

最後になりましたが、新役員共々倍旧の御理解と御協力を賜ります様重ねてお願いを申し上げまして、御挨拶とさせて頂きます。

今までに無い緊張を覚えながらも、承認の大きな拍手に後押しされ、決意の程を申し述べさせて頂いた

事が思い出されます。そして、翌年三月末に札幌市内で開催された中央研修会の余韻も覚めやらぬ四月、いよいよ新体制がスタートしました。藤山前会長は、何事にも綿密でしっかりと計画のもと取り組んでこられた方で、その後

念事業等の実施、更には北方先輩以来の神青協会長輩出地区としての面子もあり、正に気の抜けぬ二年間がありました。お陰様を以ちまして役員始め多くの皆様の御協力により、五十五周年記念事業として計画した式典・事業頒布品

【敬神手帳】・沖縄北靈碑慰靈祭・スポーツ大会・道内神社神職名簿第四版と、その全てを概ね成功裡に運ぶ事が出来ました。特に敬神手帳の作成につきましては、予て

参ります。

【次頁へ続く】

前
首
か
ら

より事業会計の充実と継続性を兼ねた事業会計につき検討を重ねた結果であり、漸く今期内の作成に漕ぎ着け感慨も一入であります。

次に本音頭の三作致しまして、行事に際しましては、会員皆様の特段の御芳情を賜り、常に熱心な姿勢を以て大勢御参加戴き、その数は全国的にも群を抜き、更には当地区において斎行された北方領土復帰祈願祭につきましても、多大なる御負担をお掛け致し、極め

神青協會長退任御挨拶

藤山敬廣



地区としての面目躍如に繋がり、私自身も大変誇らしく誠に有難く存しております。

なお次期につきましては、札幌青年・神職文月会・現道神青協副会長の田湯直宣君が務める事になります。その人柄は既知の通りにして、大いに期待を持てる人材であり、当会の発展に必ずやその手腕を發揮して頂けるものと確信致しており、皆様には一層の御理解と御協力を願い申し上げる

道神青から北方先輩が神青協会長として出向されてわずか三期空けての出向となり、重圧もあります。しかし、皆様にも大変な御負担とお迷惑をお掛けしたことと思いま

ですが、先輩方の神青協での御事績とともに、神青協の様々な事業へ多くの皆様に御参加頂きましたことが、重圧を撥ね除ける大きな力となりましたこと、感謝の念に堪えません。特に任期中に迎えました神青協創立五十五周年に際しては、先輩方から多くの御助成を頂き、また記念式典を始めとする記念事業に多くの御参加を頂くとともに、北方領土の碑における祭典には、準備から当日まで道神

青擧げて御協力頂き、改めて厚く御礼申し上げます。微力なるがゆえにどこまで出来たか反省するばかりですが、二年の任期を終え、白い予定表を見て肩の荷が下りた感がしております。

事業委員二年の後、初めて出た役員会で、蒼々たる面々の中で緊張していたのがついこの間のような気が致しますが、それから四期八年、会則改正や二度の周年事業を始め、数々の事業に参画させて頂くとともに、四度の波照間島を始め全国の地区・単位会にも度々出向し、多くの貴重な経験と得難い出会いを頂戴致しました。道神青の皆様を始め多くの方のお力添えを頂いて、そうした立場に置いて

次第であります。振り返る間も無く過ぎた二年間、この間支えてくれた同志に勇氣付けられ、そして大いなる勉強をさせて頂き、自身些かなりとも成長出来たのではないかと存じております。次なる神青協会長の大任に向かい、その前身である全国神道青年会の結成趣意書を読み返し、「火と燃える信仰は、燎原を焼く如くならねば威力を發揮することは出来ません。卓越せる斯道刷新の意見を一地区に止める事は、斯界の大な

先賢の情熱溢れる思いを肝に銘じ、今までの青年会活動で培った経験や皆様からの叱咤激励を糧に向後二年間その職を全う致すべく努力精進して参りたいと存じます。つきましては、今後益々のお力添えを賜りますようお願い申し上げ、北海道神道青年協議会会長退任のご挨拶とさせて頂きます。

二年間有り難う御座いました。

沖縄北靈碑慰靈の旅

去る二月二十二日、沖縄県糸満市

市の平和祈念公園内に建つ「北靈碑」に於いて慰靈祭が斎行されました。

この慰靈祭は、北海道神道青年協議会創立五十五周年記念事業として、大東亜戦争終結六十年の節目の年である本年、北靈碑にて慰靈祭を斎行する「沖縄北

靈碑慰靈の旅」として企画、会員OB会員を含め二十九名の参加を頂き、二月二十一日（二十四日まで）の三泊四日の日程で行われた。

二十一日、新千歳空港に集合、結団式を行い、午前十時二十分発のJAL便にて出発、午後二時五分に那覇空港に到着した。空港からバスで移動し、沖縄護國神

社、つづいて、波上宮にて、それぞれ正式参拝を行いました。

二社の正式参拝を無事終えて、宿泊地那覇市内にあるロワジーホテルオキナワに到着した。午後七時より懇親会を開催、沖縄県神社庁末安宮司様始め、沖縄神道青年会の方達のご出席を賜り、

沖縄の郷土料理を囲み、泡盛、地元の「オリオンビール」を飲みながら沖縄の味に舌鼓を打ち、沖縄の夜を満喫しました。

二十二日、慰靈祭当日は朝からの雨模様で、祭儀に支障ないかと心配されましたが、小雨に変わり、予定期刻の午前十一時より、厳粛の裡に慰靈祭が斎行されました。

斎主大野副会長のもと、祭員三名、伶人四名、舞人一名が奉仕、神饌には北海道のものを取り揃え、道内各地より持参した新巻鮭・清酒

〔金滴〕・利尻昆布・五勝手屋羊羹などが供えられた。招魂の儀では先の大戦にて沖縄本土・南方海域諸島で戦没された、北海道出身者将兵四万余柱の御英靈の御靈にお鎮まり戴き、斎主が真心籠めて祭詞を奏上、神樂「豊栄の舞」が奉



沖縄県糸満市に建立する北靈碑



沖縄北靈碑にて慰靈祭を御奉仕

粹を集めた極彩色な建物が印象的で、中国文化の影響などを強く感じました。

二十三日は、昨日の前日の雨がうそのように晴れ、最高気温も二十度を超えました。朝からの観光では「万座毛」の海岸線を歩き沖縄の海の青さに感動。当初予定にはなかつた、沖縄サミットが開催された「万国津梁館」を見学し、

「海洋博記念公園」に到着、中でも「沖縄美ら海水族館」は世界一というアクリルパネルの巨大水槽の中に、魚の群れが悠々と泳いでおり迫力満点。「今帰仁城跡」を見学後、ホテルへ戻りました。

二十四日最終日、この日も晴れ。先ず「ビオスの丘」では、亜熱帯の森をガイドに案内をしてもらひながら散策、湖水観賞船にて、湖畔の植物やランの花を観賞しました。最後の目的地、那覇市の「国際通り」は、土産物屋が建ち並び、修学旅行生が多く大変にぎやかで、A L便にて沖縄を後にしました。

新千歳空港到着後、解団式を行い、各自無事に家路へ。

ここでは、全長5kmもある、東洋の鍾乳洞「玉泉洞」があり、美しい珊瑚礁も見ることができます。他に、琉球ガラス工房、三線工房、ハブ博物公園なども見学。また、琉球王国の栄華を今に伝える首里城を見学、文化財で有名な「守礼門」があり、琉球建築の

ふるさと探訪

『鳥取百年館』 鉾路市鳥取神社
【鳥取藩士族の北海道移住】



明治維新の変革、それは武士たちにとって青天の霹靂でした。明治二年の版籍奉還、同四年の廃藩

置県により封建制度が終わりを告げ、武士の誇りであった帶刀の特権も剥奪され、西南戦争によって激化したインフレによつて下級武士のほとんどが窮乏の渦にたたかれました。

長年、武技一筋に生きてきた鳥取藩士族は從来一度外視していた学問、芸能、商売に頼らざるをえなくなりました。

しかし長く特権の座にいて農工、商に依存の生活を送つていた士族には、経済的な自立はまことに困難がありました。

士族の困窮は全国どこでもみられた現象でしたが鳥取藩田二十万石の旧家中は特に窮乏がひどく、それは因幡、伯耆両国は山陰のへんぴな土地柄で生産性の低い農業が主産業であることに起因しておらず、又、城下町鳥取には鳥取県全士族の六、七割が住んでいました。

暖国、鳥取では水の凍ることも

したから、失業士族には働く適当な職もありませんでした。

士族の困窮は年々ひどくなり貧乏で三食を欠くものが約五千人にもおよび、ついには餓死するものもいたといわれております。

士族の困窮を救済するには士族みずからの手で生計をたてるため産業に従事させることが緊急であったため政府は帰農移住、開墾をすめ鳥取県士族の北海道移住が決定しました。

明治十七、十八年鳥取県士族移住者が人跡未踏の鉾路郡ベットマイ原野の一角に集団移住帰農して『鳥取村』を創始しましたが「湿原は水田に似ているから豊かな土地に違いない」と期待に胸を膨らませ北海道にわたるも、寒冷地での開拓は予想をはるかに超える辛く苦しいものでした。防寒設備がないため冬は流しの水はもちろん酒も醤油も飯も凍つてしまつて鍋のつるを持つと掌に凍りつき、朝の布団の上には身体型の霜が白襟まで凍りバリバリになるほどでした。

珍しく、年寄りや病弱者でないかぎり綿入を着たり、足袋をはくこともありませんでしたから移住者は、この想像を絶する寒さの中を歯をくいしばり、恐怖と苦悩に耐えて刀を鍔に代えて、なれない農作業に耐え、雑木を切り開墾しつつ農作物を栽培しながら生活を続けました。

また開拓の苦労は寒さだけに限らず水害にも悩まされました。鳥取村に流れる鉾路、阿寒川が毎年のように氾濫し、農作物は収穫皆無となり、その日の食費にも窮することもありました。

大正の頃には阿寒川切替工事が完成、通水し洪水の脅威から救われました。

昭和五十九年鳥取村の開基百年を記念し「開拓の苦労と旧士族の心を最も象徴するものを」と鳥取市に城跡が残る『鳥取城』のイメージを復元した鳥取百年館が鳥取神社境内に建てられました。

鳥取百年館には開拓当時の農具、生活用具また旧鳥取藩主池田家から寄贈された徳川家ゆかりの宝物等が展示され、移住の歴史を物語っております。



鳥取城をイメージして復元した鳥取百年館

道 神 青 通 信

道神青協第九回役員会（於 樽前神社社務所）
 藤山参与・永井会長・進藤副会長・田湯副会長・
 大野副会長・中村事務局長・山口事務局次長・武
 田理事・伊部理事・丸井理事・鳥谷内理事・照井
 理事・奈良理事・佐久間理事・前田理事・山口監
 事・菅原監事

六月十七日 神青協第二回神宮式年遷宮の「こ
 ころ」を守り伝へる委員会（於 神社本庁）藤山
 参与・中村事務局長

六月十九日 「緊急道民集会」打合会（於 北
 海道神宮社務所）田湯副会長

六月二十一日 神青協北方領土元島民との交流
 会（於 根室市・北方四島交流センター）藤山參
 与・永井会長・進藤副会長・田湯副会長・大野副
 會長・中村事務局長・佐久間理事・川口理事・前
 田理事・山口監事・菅原監事・菅原隆・菅原左・
 加藤・三橋厚・堀澤・村井・若松・阿部峰・中島
 大・岩崎宣・筒井洋・赤澤・安川・富樫賛・菅野・
 太田各会員・富樫様・山内様・宮腰様

六月二十二日 神青協「北方領土返還祈願碑」
 における四島一括返還祈願祭（於 根室市・納沙
 布金刀比羅神社境内）藤山参与・永井会長・進藤
 副会長・田湯副会長・中村事務局長・山口事務局
 次長・金山理事（議長）

七月八日 道神青協第十回正副会長事務局長会
 （於 北海道神社庁一階会議室）永井会長・進藤
 副会長・田湯副会長・大野副会長・中村事務局長・
 山口事務局次長・金山理事（議長）

道神青協第十回役員会（於 北海道神社庁一階
 会議室）永井会長・進藤副会長・田湯副会長・大
 野副会長・中村事務局長・山口事務局次長・武田
 理事・伊部理事・金山理事・鳥谷内理事・照井理
 事・奈良理事・佐久間理事・川口理事・山口監事・
 菅原監事

七月十三日 神青協「知ろう学ぼうお伊勢さん」
 現地下見（於 神宮）藤山参与・田湯副会長・中
 村事務局長

神青協神宮研修会現地下見・相当地区実行委員
 会との連絡会（於 神宮会館）藤山参与・田湯副
 会長

七月十四日 神青協第三回神宮式年遷宮のこ
 ろを守り伝へる委員会（於 神宮会館）藤山参与
 山参与・大野副会長

六月二十三日 神青協役員正式参拝（於 北海
 道神宮頓宮）藤山参与・永井会長・田湯副会長・
 中村事務局長

神青協役員研修会（於 北海道神宮頓宮社務所）
 藤山参与・永井会長・田湯副会長・中村事務局長
 神青協第七回教化委員会（於 新琴似神社社務
 所）藤山参与・田湯副会長

六月二十五日 神社本庁指定団体連絡会議（於
 神社本庁）藤山参与

七月七日 群馬県神職青年会創立十周年記念式
 典（於 安中市ホテル磯部ガーデン）藤山参与

平成十六年度北陸神道青年協議会研修会（於
 高岡市 磯はなび）藤山参与

七月八日 道神青協第十回正副会長事務局長会
 （於 北海道神社庁一階会議室）永井会長・進藤
 副会長・田湯副会長・大野副会長・中村事務局長・
 山口事務局次長・金山理事（議長）

道神青協第十回役員会（於 北海道神社庁一階
 会議室）永井会長・進藤副会長・田湯副会長・大
 野副会長・中村事務局長・山口事務局次長・武田
 理事・伊部理事・金山理事・鳥谷内理事・照井理
 事・奈良理事・佐久間理事・川口理事・山口監事・
 菅原監事

七月十三日 神青協「知ろう学ぼうお伊勢さん」
 現地下見（於 神宮）藤山参与・田湯副会長・中
 村事務局長

神青協神宮研修会現地下見・相当地区実行委員
 会との連絡会（於 神宮会館）藤山参与・田湯副
 会長

七月十九日 神青協事業委員会（於 浅草神社）
 藤山参与・大野副会長

七月二十日 神青協正副会長委員長議長会（於
 神社本庁）藤山参与・田湯副会長

神青協第十四回役員会（於 神社本庁）藤山参
 与・永井会長・田湯副会長

神青協第十二回事業委員会（於 神社本庁）大
 野副会長

七月二十一日 神青協夏期セミナー（於 神
 社本庁）藤山参与

七月二十九日 第五回本宗奉賛研究会（於 神
 社本庁）藤山参与

八月四日 神道青年四国地区協議会第十回総会
 並びに研修会（於 徳島ワシントンホテル）藤山
 参与

八月六日 神青協第八回教化委員会（於 名古
 屋マリオット・アソシア・ホテル）藤山参与・永
 井会長・田湯副会長

神青協教化委員会・神宮研修会実行委員会との
 打合会（於 热田神宮会館）藤山参与・永井会長・
 田湯副会長

八月七日 全国氏子青年協議会全国大会（於
 热田神宮会館）藤山参与

八月八日 福島県神道青年会創立五十五周年記
 念式典（於 郡山市・ホテルハマツ）藤山参与・
 田湯副会長

八月二十三日 神青協第十三回事業委員会（於
 神社本庁）大野副会長

八月二十四日 道神青協第十一回正副会長事務
 局長会（於 北海道神社庁一階会議室）永井会長・
 進藤副会長・田湯副会長・大野副会長・中村事務
 局長・山口理事（議長）

道神青協第十一回役員会（於 北海道神社庁一
 階会議室）永井会長・進藤副会長・田湯副会長・
 山参与・大野副会長

道 神 青 信 通 道

- 大野副会長・中村事務局長・武田理事・山口理事・
白取理事・鳥谷内理事・藤川理事・奈良理事・川
口理事・前田理事・山口監事・菅原監事・中島会
員・照井理事代理
- 八月二十九日 神青協「知ろう学ぼうお伊勢さん」事前準備(於 神宮会館) 藤山副会長
- 八月三十日 神青協「知ろう学ぼうお伊勢さん」打合会(於 神宮会館) 藤山参与・永井会長・田
湯副会長・中村事務局長
- 神青協第十五回役員会(於 神宮会館) 藤山参
与・永井会長・田湯副会長
- 八月三十日(三十一日) 神青協「知ろう学ぼう
お伊勢さん」(於 神宮・神宮会館) 藤山参与・
永井会長・田湯副会長・中村事務局長
- 九月一日 青森県神道青年会創立五十周年記念
大会(於 ホテル青森) 永井会長・田湯副会長
- 九月七日 奈良県神道青年会創立四十周年記念
式典(於 横原ロイヤルホテル) 藤山参与
- 九月八日 宮城県神道青年協議会創立五十五周年
記念式典(於 仙台エクセルホテル東急) 藤山
参与
- 九月十七日 道神青協創立五十五周年記念ス
ポーツ大会(於 つどーむ・アオキボウル) 野球
五十名・ボウリング四十二名参加
- 道神青協臨時総会(於 札幌東急イン) 会員数百
六十四名 出席者数七十一名 委任状数五十四通
議件
- 一、北海道神道青年協議会次期会長並びに監事選
出の件
- 一、その他
- 九月二十八日 道神青協第十二回正副会長事務
局長会(於 北海道神社庁一階会議室) 藤山参与・
永井会長・進藤副会長・田湯副会長・大野副会長
- 中村事務局長・山口事務局次長・丸井理事(議長)
道神青協第十二回役員会(於 北海道神社庁一
階会議室) 藤山参与・永井会長・進藤副会長・田
湯副会長・大野副会長・中村事務局長・山口事務
局次長・武田理事・伊部理事・山口理事・丸井理
事・藤川理事・照井理事・奈良理事・佐久間理事・
川口理事・前田理事・山口監事・菅原監事
- 十月六日 神青協第十六回役員会(於 國學院
大學院友会館) 藤山参与・永井会長・田湯副会長
十月七日 神道文化会との打合せ会(於 神社
本庁) 藤山参与
- 神青協第四回神宮式年遷宮のこころを守り伝へ
る委員会(於 國學院大學院友会館) 藤山参与・
田湯副会長・中村事務局長
- 神青協事業委員会(於 國學院大學院友会館)
藤山参与
- 十月二十日 道神青協第十三回役員会(於 ホ
テル函館ロイヤル) 藤山参与・永井会長・進藤副
会長・田湯副会長・中村事務局長・山口事務局次
長・伊部理事・松崎理事・山口理事・金山理事・
丸井理事・鳥谷内理事・藤川理事・照井理事・佐久
間理事・川口理事・前田理事・山口監事・菅原監事
監事・菅原監事・小野雄二会員(渡島神道青年会
会長)・小野清昭会員(研修会司会)・小野一良会
員(研修会実行委員長)
- 十月三十日(二十一日) 平成十六年度道神青協
研修会(於 ホテル函館ロイヤル) 主題「教育」
(失われた徳目の精神、今求められる伝統的德育
の実践) 参加者数七十八名
- 第一講 高木幹雄氏「ゆがめられた心」マインド
コントロールされた民俗の悲劇
- 第二講 松居 和氏「二十一世紀の子育て」
- 十月二十六日 東京都神道青年会創立五十五周
年記念式典(於 ホテルメトロポリタンエドモント
ン) 藤山参与・永井会長・田湯副会長
- 神青協災害対策委員会 藤山参与
- 十月二十七日 新潟県視察 藤山参与・永井会
長
- 十一月十日 神青協第五回遷宮委員会(於 神
社本庁) 藤山参与・田湯副会長・中村事務局長
神青協次期会長監事選考委員会(於 神社本庁)
藤山参与・田湯副会長
- 十月七日 神道文化会との打合せ会(於 神社
本庁) 藤山参与
- 神青協第十七回役員会(於 神社本庁) 藤山参
与・永井会長・田湯副会長
- 十一月十一日 神青協臨時総会(於 神社本庁)
藤山参与・永井会長・進藤副会長・田湯副会長・
大野副会長・中村事務局長・山口監事・菅原監事
神青協「知ろう学ぼうお伊勢さん」事業報告会
(於 神社本庁)
- 藤山参与・永井会長・進藤副会長・田湯副会長・
大野副会長・中村事務局長・山口監事・菅原監事
神青協第二回時局問題報告会(於 神社本庁)
藤山参与・永井会長・進藤副会長・田湯副会長・
大野副会長・中村事務局長・山口監事・菅原監事
十一月十二日 神青協第十五回事業委員会(於
神社本庁) 藤山参与・大野副会長
- 十一月十七日 道神青協正副会長事務局長会
(於 銚路プリンスホテル) 永井会長・進藤副会
長・田湯副会長・大野副会長・中村事務局長・山
口事務局次長・藤川理事(議長)
- 道神青協第十四回役員会(於 銚路プリンスホ
テル) 永井会長・進藤副会長・田湯副会長・大野
副会長・中村事務局長・山口事務局次長・山口理
事・藤川理事・照井理事・佐久間理事・川口理事・

道 神 青 通 信

前田理事・山口監事・菅原監事
新潟県中越地震対策本部作業（於 新潟県神社

府

藤山参与

十一月十八日

新潟県中越地震対策本部事務会

（於 神社本庁）藤山参与

長野県護国神社

藤山参与

十二月二日

長野県神道青年会創立五十五周年

記念式典（於 長野県護国神社）藤山参与

十二月四日

神青協正副会長委員長議長会（於 神社本庁）藤山参与

神青協第十八回役員会（於 神社本庁）藤山参

与・永井会長・田湯副会長

神青協顧問会（於 東京芝浦・牡丹）藤山参与

永井会長・田湯副会長

十二月八日

神青協第十五回事業委員会（於 神社本庁）大野副会長

十一月十三日～十四日

第七回本宗奉賛研究会（於 神社本庁）藤山参与

（於 神社本庁）藤山参与

（於 神社本庁）藤山参与

平成十七年

一月十七日

阪神淡路大震災十年「天地の祈り」

（於 兵庫県伊弉諾神宮）藤山参与

一月十九日

神青協第十七回事業委員会（於 神社本庁）藤山参与・大野副会長

一月二十四日

日本会議北海道本部第三回合同

會議（於 北海道神宮社務所）田湯副会長

一月二十五日

神青協第六回遷宮委員会（於 神社本庁）藤山参与・田湯副会長・中村事務局長

神青協正副会長委員長議長会議（於 神社本庁）藤山参与

一月二十六日

神青協第十九回役員会（於 神社本庁）藤山参与

副会長

神青協次期役員オリエンテーション・各委員会

引き継ぎ会（於 神社本庁）藤山参与・永井会長・

藤山参与

十一月二十六日

神青協第十九回役員会（於 神社本庁）藤山参与

副会長

神青協正副会長委員長議長会議（於 神社本庁）藤山参与

十一月二十六日

神青協第十九回役員会（於 神社本庁）藤山参与

副会長

神青協正副会長委員長議長会議（於 神社本庁）藤山参与

十一月二十六日

神青協第十九回役員会（於 神社本庁）藤山参与

副会長

神青協正副会長委員長議長会議（於 神社本庁）藤山参与

田湯副会長・大野副会長

一月二十八日 道神青協正副会長事務局長会

（於 北海道神社庁）永井会長・進藤副会長・田

湯副会長・大野副会長・中村事務局長・山口事務

局次長・照井理事（議長）

道神青協第十五回役員会（於 北海道神社庁）

藤山参与・永井会長・進藤副会長・田湯副会長・

大野副会長・中村事務局長・山口事務局次長・武

田理事・山口理事・鳥谷内理事・藤川理事・照井

理事・佐久間理事・前田理事・山口監事・菅原監

事

二月十日 日本国議北海道本部講師先生を囲む

会（於 ロイトン札幌）田湯副会長

二月十一日 建国記念の日奉祝道民の集い（於 ロイトン札幌）田湯副会長

年記念事業 沖縄北靈碑慰靈祭（於 沖縄県）藤

山参与・永井会長・進藤副会長・田湯副会長・大

野副会長・中村事務局長・山口事務局次長・川

口理事（議長）

道神青協第十六回役員会（於 新琴似神社）藤

山参与・永井会長・進藤副会長・大野副会長・中

村事務局長・山口事務局次長・武田理事・山口理

事・金山理事・鳥谷内理事・藤川理事・照井理事・

佐久間理事・川口理事・山口監事・菅原監事・加

藤会員・三橋（厚）会員

三月十六日 氏青との懇談会（於 東京都）藤

山参与

三月十七日 新潟視察（於 新潟県）藤山参与

三月二十二日 神青協第二十一回役員会（於 伊勢市神宮会館）藤山参与・永井会長・田湯副会

長・大野副会長

三月二十三日 神青協第八回遷宮委員会（於 神宮会館）藤山参与・田湯副会長・中村事務局長

神青協第十九回事業委員会（於 神宮会館）大

野副会長

三月二十三～二十四日 神青協神宮研修会（於 神宮・神宮会館）藤山参与・永井会長・田湯副会

長・大野副会長・中村事務局長・加藤会員・早野

会員・三橋（昌）会員

田湯副会長・大野副会長

一月二十八日 道神青協正副会長事務局長会

（於 北海道神社庁）永井会長・進藤副会長・田

湯副会長・大野副会長・中村事務局長・山口事務

局次長・照井理事（議長）

道神青協第十五回役員会（於 北海道神社庁）

藤山参与・永井会長・田湯副会長・大野副会

長

三月八日 神青協第二回次期役員予定者会議

（於 國學院大學院友会館）藤山参与・永井会長・田湯副会

長

三月十日 本宗奉賛研究会（於 神社本庁）藤

山参与

三月十一日 道神青協正副会長事務局長会（於 新琴似神社）永井会長・進藤副会長・田湯副会

長

三月十二日 本宗奉賛研究会（於 神社本庁）藤

山参与

三月十三日 道神青協第十六回役員会（於 新琴似神社）永井会長・進藤副会長・田湯副会

長

三月十四日 本宗奉賛研究会（於 神社本庁）藤

山参与

三月十五日 道神青協第十七回役員会（於 新琴似神社）永井会長・進藤副会長・田湯副会

長

三月十六日 本宗奉賛研究会（於 神社本庁）藤

山参与

三月十七日 新潟視察（於 新潟県）藤山参与

三月二十二日 神青協第二十一回役員会（於 伊勢市神宮会館）藤山参与・永井会長・田湯副会

長

三月二十三日 神青協第八回遷宮委員会（於 神宮会館）藤山参与・田湯副会長・中村事務局長

神青協第十九回事業委員会（於 神宮会館）大

野副会長

三月二十三～二十四日 神青協神宮研修会（於 神宮・神宮会館）藤山参与・永井会長・田湯副会

長・大野副会長・中村事務局長・加藤会員・早野

会員・三橋（昌）会員

三月二十三～二十四日 神青協神宮研修会（於 神宮・神宮会館）藤山参与・永井会長・田湯副会

長・大野副会長・中村事務局長・加藤会員・早野

会員・三橋（昌）会員

三月二十三～二十四日 神青協神宮研修会（於 神宮・神宮会館）藤山参与・永井会長・田湯副会

長・大野副会長・中村事務局長・加藤会員・早野

会員・三橋（昌）会員

平成十六年度協賛神社一覧

道 神 青 通 信

【札幌】北海道神宮・三吉
神社・豊平神社・札幌諏訪
神社・伏見稻荷神社・札幌
村神社・弥彦神社・信濃神
社・札幌護國神社・篠路神
社・琴似神社・江南神社・
新琴似神社・手稻神社・相
馬神社・厚別神社・白石神
社・廣島神社・江別神社・
野幌神社・錦山天滿宮・石
狩八幡神社・当別神社・厚
田神社・農業神社・千歳神
社・上宇都神社・烈々布神
社・水天宮・西岡八幡宮・
石山神社・札幌祖靈神社・
南線神社

【渡島】函館八幡宮・龜田
良八幡神社・松前稲荷神社・
福島大神宮・尻岸内八幡神
社・般若華八幡神社・鹿部
稻荷神社・錢龟八幡神社・
石崎地主海神社・湯倉神社・
三嶋神社・(臼杵)厳島神社・
【協会】砂原稻荷神社・上
磯八幡宮・雷公神社・長万
部飯生神社・落部八幡宮・
意富比神社・有川大神宮
【單立】七飯浜海津見神社・
弁太嚴島神社・佐安川神社・
龜田龍神社

【檜山】檜山神道青年会
社・中川神社・北海道護
国神社
【後志】住吉神社・龍宮神
社・小樽稻荷神社・水天宮・
天満宮・潮見ヶ岡神社・豐
足神社・高島稻荷神社・余
市神社・仁木神社・琴平神
社・美霞神社・泊稻荷神社・
岩内神社・小沢神社・俱知
安神社・京極八幡神社・喜
茂別神社・留寿都神社・真
狩神社・狩太神社・日名八
幡神社・大鳥神社・寿都神
社

【空知】夕張神社・岩見沢
神社・峰延神社・栗澤神社・
南幌神社・市来知神社・滝
川神社・空知泊厚父通神社・
江部乙神社・赤平神社・出
雲神社・由仁神社・長沼神
社・栗木大瀬戸・樺戸神社・
新十津川神社・深川神社・
芽生神社・秩父神社・大國
神社・雨童神社・沼田神社
【上川】鷹栖神社・旭川神
社・上川神社・神楽神社・永
東神樂神社・神居神社・永
山神社・當麻神社・比布神
社・東川神社・大上川神社・
美瑛神社・上富良野神社・永
中富良野神社・富良野神社
【釧路】嚴島神社・三吉神
社・鳥取神社・昆布森神社・
厚岸神社・霧多布神社・川
上神社・弟子屈神社・阿寒
神社・白糠嚴島神社・音別
神社・厚岸真龍神社

神社・中川神社・北海道護
国神社
【留萌】留萌青年神職会
【宗谷】宗谷青年神職会
【紋別】遠軽神社・湧別神
社・厳島神社・雄武神社
【胆振】室蘭八幡宮・中嶋
神社・本輪八幡神社・樽
前山神社・恵比寿神社・伊
達神社・大臼山神社・壯瞥
神社・稲荷神社・農浦神社・
刈田神社・白老八幡神社・
追分八幡神社・早来神社・
厚真神社・鶴川神社

【日高】義経神社・大神神
社・水川神社・静内神社・
三石神社・浦河神社・様似
住吉神社・住吉神社
【十勝】帶廣神社・大正神
社・川西神社・芽室神社・
御影神社・清水神社・新得
神社・鹿追神社・十勝神社・
上幌神社・音更神社・札
内神社・池田神社・陸別神
社・本別神社・足寄神社・
浦幌神社・十勝神社・大樹
神社・茂岩神社・幕別神社
【釧路】嚴島神社・三吉神
社・鳥取神社・昆布森神社・
厚岸神社・霧多布神社・川
上神社・弟子屈神社・阿寒
神社・白糠嚴島神社・音別
神社・厚岸真龍神社

神青協「神宮式年遷宮のいろいろを
守り伝へる委員会」一同、鋭意内
容を企画中でございます。北海道
からも多くの会員・家族が参加さ
れますことを御期待申し上げます。

平成十六年四月、神宮大官司様
より第六十二回神宮式年遷宮の御
聴許を拝されました。

十七年参加者募集

神青協では継続事業の一つとし
て、去る平成十六年八月三十一
日に「知ろう学ぼうお伊勢さ
ん」が開催されました。この事業
は子供を対象としておりますが、
親子共に神宮両正宮を中心とする
宮域内の主要各宮社毎に巡拝学習
を行い、神宮の存在・遷宮の意義
について体感して戴く事を目的と
しています。子供達が「神宮」を
肌で感じ、家族と共に学習する事
により日本の伝統を身近にとっか
え遷宮の意義を感じるまでに成長さ
れることを切に願います。本年、
平成十七年も七月二十六～二十七
日に開催が決定しております。

△一期四年、道神青理事を務め
てまいりましたが、お役に立て
ず、ただ四年間が過去了つような
気がします。△しかししながら私
自身、数多くの意義深い経験、
勉強をさせて頂き感謝しております。
△今回、最後の仕事とし
て通信を担当させて頂きました。
年度末の通信のため掲載事項も
多く、割付などで読みにくいく
もあるつかと思いますが御了承
下さい。△発刊に際しての「」寄
稿、「」協力を戴きありがとうございました。

編 / 集 / 後 / 記

題「道神青」について
本通信は、平成四月一月
一日創刊にあたり、当時の
中野尹亮北海道神社庁々長
に揮毫戴いたものです。

北海道神道青年協議会事務局
弥彦神社社務所内
E-Mail
doshinsei@dream.com
TEL 011-521-2565
FAX 011-521-2378